

# 電友会四国連合会報

第 73 号

3・1

## 目 次

年頭にあたって（取締役四国支社長）	二
年頭ごあいさつ（電友会四国連合会会長）	三
私は今	三
高齢者叙勲（中北久勝さん）	五
電信電話記念日の表彰	五
NTT・OB軟庭クラブ秋期大会（松山）	五
川柳（佐々木光・森安文子）	五
NTT情報	六
五〇万台突破記念セレモニー	六
秘話サービスを四国地域で開始	六
テルウェルだより	六
余 栄	八
敬 弔	九
表紙の言葉	九
随 筆	九

穴吹 義教 馬木 重美 織田 鶴一  
 岡田 恂三 梶浦 照彦

## 年頭にあって

取締役四国支社長

佐 田 啓 助



電友会の皆様、明けましておめでとうございます。皆様方には、ますます御健徳でよいお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、NTT事業に対して深いご理解をいただき、かつ又、各種の機会を通じて、格別のご協力とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本年は電友会が全国組織に統一されまして二年目に入ります。会員数も三、三〇〇名に達し、ますます発展を続けられ、まことにご同慶のいたり存じます。

昨年は電話創業一〇〇年に当たり、又、電話事業始まって以来の番号案内費用負担適正化（電話番号案内の有料化）の実施、あるいは、料金誤請求問題等、お客様サービスに対する社会からの批判は、NTTが長年培ってきた「信頼」に疑問を投げかけられた年でもありました。

本年はこれらの問題に対して一つ一つ着実に実行していく年であります。

番号案内費用負担適正化につきましては、当初予期しておりました各種のトラブルもなく、ほぼ順調な滑り出しをしておりますが、有料化による利用の減少につきましては、今

後の推移の変化を見極める必要があります。今後とも、お客様に喜んで料金がいただける案内を目指して対応の改善に努めます。

また、料金問題は、お客様にとって一番の関心事であり、今後この種の問題が再び発生することのないよう各種データの正確化、仕事の見直しの実施を行い、一日も早い信頼回復が急務であります。

電気通信事業の全分野においても競争は一段と激化しており、収入の大部分を占めるダイヤル通話料は、数次にわたる料金値下げと他事業者のシェア拡大によって漸減の傾向にあり、先に発表された二年度の間接決算では、経常利益は前年同期より二三・七％減の一、五四九億円となり、営業収入を見ますと、電話サービスは二・一％の伸びとなっているものの、特にダイヤル通話料は〇・三％減となっております。

四国におきましても、市外電話サービスにおいてNCCが高松及び松山にPOI（相互接続点）を設置してサービス提供を開始しており、本格的な競争に入ったわけであり、試験の年であります。

又、移動体通信におきましては、四県下全域においてポケットベル、自動車電話、携帯電話の全分野で既にし烈な競争を続けており、そのシェアも先発地域に於きましては、NCCが全体の約三〇％数に達している状態です。

今後とも競争激化の一途をたどる状況の中で、我々は世の中ですっかりとした評価を勝ち取り、電気通信事業者としてお客様サービスの立場に立った「より安く、より使い易い電気通信サービスの提供」に全力を傾注する覚悟です。

四国の業務運営体制は、昨年七月三〇日をもって、一支社一三PU体制及びタスク化が完了いたしました。

これは、お客様サービスの改善・向上を通じてお客様に信頼され、企業として継続的に発展していくため「お客様を中心に据えた業務運営体制」に変革していくものであり、ベストサービスを徹底して、自己完結型の業務運営を是非とも推進し定着させる必要があります。

平成三年度の施策につきましては、先ず競争体制に対応する組織の確立を図るとともに働きがいのある職場を前提にしながらサービスの維持向上を図っていく、料金の誤請求問題にあったような基本的なサービスの提供について反省し、取り組みを強化しなければなりません。

二つ目は四国の設備は総体的に古くなっているため、設備更改（デジタル化）のための建設投資をしなければなりません。三つ目は大都市中心の新規サービスに対し、積極的に取り組み、新しい需要を開拓していく必要があります。

以上が四国の課題であり、私の責務であると考えています。

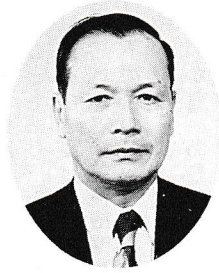
皆様方は、私たちの先輩であられるとともに、地域社会においても厚い信頼を得ておられる方々でございますので、今後とも地域社会とNTTとの接点になっていただき、電気通信事業の発展のため豊富な経験を生かされ、ますますご精進下さいますようお願い申し上げますとともに、ご指導ご支援を賜りますようお願いする次第です。

おわりに、皆様方のますますの御健康と御多幸並びに電友会のご繁栄を心からお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。

## 年頭にあつち

電友会四国連合会会長

六 車 美 一



平成三年の新年を迎え、会員の皆様にとって、この一年がよき年でありますようお願いいたします。

昨平成二年において、われわれの電電OB団体は大きく変貌しました。即ち、電退連（日本電信電話退職者団体連合会）という全国的な連合体を、全国一本の「電友会」という単一組織に改組されたことでもあります。

改組の目的は、今更申すまでもないと思いますが、要約すれば、N T TとOBの連絡協調を密にして、相互に協力・支援を強化し、それによってN T TはOBの力を事業に活かす、OBはN T Tの支援を得て個人的、団体的に活性化を図ろうとするものであります。わが、四国の電友会も右の電友会の中へ組み込まれているのでありまして、今後、改組の目的に向って、われわれOB団体側が努力して参りますと共に、N T T側におかれても対OB施策を積極的に打ち出されることを期待したいと思います。

N T T四国では、平成二年度において、十三ブロック体制移行を完了するとともに、上下が四段階の旧組織から、本社・支社・現場の三段階組織への移行も完了し、内部強化策はひとまず整ったものとお見受けいたします。しかし、外部条件は依然として厳しいもの

が引きつづき去来している模様で、事業の分離・分割の問題、N T T株の問題（N T Tに責任の有る無しは別問題として）、既存の競争会社に加えて新規会社のサービス参入などがのしかかっています。われわれは、今後とも、N T Tと地域社会との接点となって、N T Tの堅実発展にできる限り寄与して参りたいと思います。

次に共済年金について申しますと、年金額の改定については、法律改正がなされた結果、平成二年四月以降は「年金額は、その前年の消費者物価の変動率に応じて、自動的に改定される」ということになりました。ここでいう「自動的に改定」とは「従来は、法律によらなければ改定できなかったが、今後は法律という難関を通さなくて宜しい。政令で似て改定ができる。それだけ容易になった」ということです。この、いわゆる物価スライド制実施の第一年度が昨年でありました。

今後、年金改善要望の方向としては、年次改定を物価スライドでなくて、現職公務員の給与改善率を基礎とすること、年金課税の軽減、職域年金部分の引き上げ、年金財源の抜本的改善（JR、たばこ産業に対する救済措置を他の年金に依存するやり方を改める）など数多くありますが、今後も関係方面へ、他の退職者団体と協力して陳情運動をつづけ少しずつでも改善の実が挙がるよう努力したいと思います。

いまでもなく、健康は人生の第一条件であります。そして生き甲斐は人生の活動源であります。会費の皆様はどうか御自愛のうえ、地域のため、社会のため、家族のため、趣味のために御活躍を、また健康を害しておられる方は一日も早く御快復されますようお祈りしつつ新年のごあいさつと致します。

## 私は今

○ 小倉 浄一（松山）

燕は南の国へ、鶴白鳥は北の国より訪れて、季節の変わり目は旅立ちの時候でもある。

旧満州時代の思い出としては、佳木斯の対岸にて、遙か百キロ西方に興安嶺を眺めながら過ごした三月〜十月の間、「ガアガア」と鳴く鶴白鳥の大群に、眠れぬ夜が続いたことである。

町内会の世話も新旧交替期を迎えたので、近頃はのんびりとした生活になり、健康の基本には快食・快眠・快便を三本柱とし、日常生活は読書、庭いじり、テレビの三セットを守り、一日一日を大切に送迎しております。

○ 白井 登（松山）

雌の芝犬を飼い始めて十三年になる。

この犬は、八年ほど前にフィラリアを病んで、九死に一生を得たため、仔を生ませず、一生「行かず後家」で暮らす仕儀となったが、お陰で容貌は年より若い。

愚生は、この犬とともに毎日四キロを一時間かけて歩いているが、これが老人と老犬との健康保持の秘訣といえは言えるのであろう。老生と犬と、どちらが先にあのお世話になるかは兎も角として、今のところ、共に何とか安泰の日々である。

○ 榎本アサノ（松山）

第一次石油ショックの時、当時の部長さんが、以前数年間、「クウェートに在住されていた」と聞いた。その時私は、「クウェートはサウジアラビアの首都だ」と言い、爆笑された苦い思い出がある。

今回大きくクローズアップされた中東、武

力か？講和か？毎日一喜一憂している。  
あの悲惨であった第二次世界大戦、再び繰り返すことのないよう、早期解決を切に望んでいる。

平和なくしては、私達の得るものは無い等しいのだから…。

○浜口 徳幸（松山）

一定年退職してから、もう二十三年が過ぎました。今や八十二才の老体となり、盆栽いじりが日課です。

好きだった麻雀も、狭心症を患ってから、五年間一度も手にしません。最近では腰痛で整形外科へ物療に通院していますが、はかばかしくありません。

思い出は、七十才頃から愛媛県皇居奉仕団に参加して、連続七年間皇居の清掃奉仕に従事しましたが、些細な勤労奉仕に、天皇陛下からお側近くでありがたいのお言葉を賜わり、恐懼感激したことです。

○後安 良助（宇和島）

退職して十九年、第二の職場も満七十才で引退しましたが、現役時代から保護司をしてきたこともあり、先輩の要請で法務役人の事務補助を引き受け、同時に地区会の庶務を担当し、地区内の各種機関長を迎えての総会では、不都合があつてはと心配しながら、現在も続け、さらに寺総代、保育園の監事なども仰せつかり、ありがたき悲鳴をあげています。社会奉仕活動も満二十一年、これが健康の源と思ひ、お陰で元気で頑張っております。皆様も健康に注意され、頑張ってください。

○久米 実（高松）

中高年の登山！気ままな山登り、'86・8富士山を皮切りに、'87・7五童・鹿島槍、'88・7鳥海山と月山の三山巡りを、'89・4は大菩薩峠の残雪に悩み、同10月の安達太郎縦走では、天候の急変に緊張の場面も…

昨年は九重連峰のミヤマキリシマを、さらに7月には利尻富士登頂、礼文島の八時間コース踏破など、健康を考えての山行を心がけて楽しんでいきます。

さて、今春は、スイスのヴァイスホルンの見物等を計画中ですが…  
皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

○渡辺キヨ子（高松）

東京の大学二年生に在学中の孫娘が、昨年夏、夏休みを利用して、語学の勉強のため、カリフォルニア州立大学に短期留学し、その際、私の生れ故郷であるロサンゼルスにも友人達と足をのびし、楽しんだ様子です。

新しく変わったアメリカを、一度この目で確かめたいと思ひながらも、今のところチャンスが無く、残念に思っています。

しかしながら、孫娘が一足先に見聞を広めてくれたことを嬉しく思ひ、みやげ話を聞くのを心待ちにしております。

○渡辺 カツ（丸亀）

光陰矢の如しとか、退職して早二十五年の歳月が流れました。

毎日同じことを繰り返しても心は同じでなく、昨日の私は今日の私でない、静かに考えに耽ることがあります。

私の日課は午前六時に起床、神前に礼拝し、仏前で勤行を済ませ、朝食が終わると一日の家事が始まり、新聞や雑誌を読んだり、時に

は筆を持つこともあり。また友人とお茶、食事などをして、ひと時を楽しんでもいます。時々懐かしい支店にゆかけ、大N T Tの移り変わりを聞きしは、驚くばかりです。

○関 貞夫（高瀬）

昭和五十八年に榊閣商事の代表取締役を長男と交代、その後は趣味の盆栽に徹し、日本盆栽協会香川西讃支部長として、会員四十余名のお世話をしています。

毎月一回の例会、年間では二月の東京国風展、県内各所の展示会、十一月の京都日本盆栽大観展、当支部展等々、忙しい日々です。

特に今年、第五回国民文化祭・愛媛90で松山市へも出展、これまた多忙を極めました。年齢と共にエンジンもお古になり、時々エンジンを起こしますが、気嫌を取り取り何とかエンジン全開している今日この頃です。

○住岡美代子（徳島）

半世紀前の恩師との出会いが縁となり、旧友と「和紙ちぎり絵」を習っています。

白鳥の作品を見た主人曰く、「赤ちゃんのオマルみたい…」だと、また阿波の巡礼お鶴を見た孫は、「この子ベー出してるナ…」と、苦笑いしながら、それでも挫けず、毎年ちぎり絵展覧会に出展しています。

また趣味のお茶では、同好の友と愉快に楽しんでいきます。

主人が町内会長のため、毎日雑用に追われていますが、これも老化防止に役立つかも？明るく老いたいものと念願しつつ…

○北村 了詳（高知）

古稀を過ぎて老を感じるこの頃ですが、元

気で平凡な生活を送っています。

趣味というほどでもありませんが、健康とボケ防止になればと、好きな旅行に出かけたり、下手な絵を描いて、自分なりに楽しんでいます。風呂上がりの一本の晩酌も楽しむの一つです。

みなさまのご健康とご多幸を祈念しつつ：

○川村 静枝（佐川）

主人の七回忌を一昨年済ませて、ようやく一人暮らしにも馴れてきました。

猫の顔ほどの畑で野菜作りをしています。近所の畑を見ては種を買いに走ったり、苗を植えたりするので、仲々大きく育ちません。手芸も好きで、自己流のパッチワークや編物に精出しています。

横浜と奈良に息子がおりますので、よく遊びに行きますが、そのためにも体に気をつけて、毎日を元気に送りたいと思っています。

○松本 一喜（土佐中村）

私も平均寿命を授かりました。既往症の高血圧も正常に戻り、体調は今のところまあまあですが、時々胃腸をやられては、農協の入れつけのお世話になっています。

さて、昔を顧みて、その時期と我が不甲斐なさから、苦難の日々が思い出され、今また子供達に逃げられ、これも我が人生かとあきらめ、格別趣味のないのを幸いに、ボロ家の繕い、屋敷・墓地の手入れ、掌ほどの野菜畑いじりを、これからも老婆と年金を頼りに、ボンボンやってゆく覚悟ですので、よろしく頼みます。

高齢者叙勲（満八八才）

多年、電気通信事業に貢献された功績により、多度津町の中北久勝様が、さる十月一日、高齢者叙勲の栄に浴されました。

心からお喜び申し上げます。上げますとともに、なお一層のご健勝をお祈りいたします。勲五等瑞宝章 中北久勝様



中北久勝様

電信電話記念日の表彰

さる十月二十三日の電信電話記念日（NTT第六回）に当たり、永年電信電話事業に協力されたご功績により、次の方々が四国支社長から表彰されました。

- 松垣加行様（松山）
- 篠原福太郎様（新居浜）
- 大浦栄三郎様（高松）
- 横井秀夫様（丸亀）
- 原 清司様（坂出）
- 池内寿子様（高知）
- 小松俊美様（高知）
- 井上広次様（伊野）

NTT・OB軟庭クラブ

平成二年度秋期大会開催（松山）  
去る十一月十七日（土）、秋色濃い堀之内市営コートにおいて、当クラブの本年度秋期大会が開催されました。



雲ひとつない、素晴らしい秋空のもと、和やかななかにも、年齢を忘れての元氣一杯のプレーが展開されました。

「さすがは」と思わせる素晴らしいプレー、「矢張り年齢かな」と思われる迷プレーが繰り上げられるたびに、数少ない（？）観客から盛んな拍手がおくられ、大会を活気づかせました。

大会終了後、恒例の懇親会を番町会館において開催、健康で、テニスを楽しむ幸せをお互いに祝福しあい、今後一層の精進を誓いあったことでした。（玉木記）

なお、当日の成績は次のとおりです。

- 優勝 三好、岡本 組
- 準優勝 山崎、溝田 組
- 3位 田内、内藤 組
- 4位 松岡、木村 組（続木）
- 5位 水野、玉木 組
- 6位 藤野、西岡 組



川柳 佐々木 光（枚方）

鯉市を見るが豊楽松の内  
老婆と五目並べて梅雨遊ぶ  
そろそろと雨戸を開ける若い嫁  
定年で捨てたプライド葱植える  
空家ですときれいな指が膝にくる

森安 文子（高松）

木犀の匂い隣を近くする  
川幅を知って遊びの輪に入る  
忘れぬロマンス抱いて芋洗う  
回り道してもやっぱり我が家の灯  
カレンダーは午後の約束知っている

NTT情報

全国の自動車電話・携帯電話が50万台を突破

全国一〇会場

「50万台契約突破記念

セレモニー」開催!

—— 四国は松山会場

世界最小の超小型携帯電話も紹介

NTTの自動車電話・携帯電話の契約者数が、昭和54年のサービス開始から12年目で50万台を突破（平成2年12月）しました。

NTT四国では、全国50万台突破を記念して、さる12月20日（木）正午から、松山市内の「国際ホテル松山」において「自動車電話・携帯電話50万台契約突破記念セレモニー」を開催しました。

セレモニーは、50万台突破を契機に日頃のご愛顧を感謝するとともに、移動体通信事業の新たな飛躍を目指し行われたもので、東京都内「帝国ホテル」をメイン会場に、全国9会場（札幌・仙台・長野・金沢・名古屋・大阪・広島・福岡・松山）をマルチスクリーンで結び、全国規模により開催したものです。松山会場では、移動体通信事業の発展に貢献していただいた約二百名（全国約五千名）の方々をお招きし、今、話題の新商品「超小型携帯電話」の模型展示、Mr.マリックショー・ライブコンサートや各会場の模様を中継紹介するなど、バラエティな演出によりパーティーは盛りあげられました。

自動車電話サービスは、昭和54年12月、東京地区から、大阪地区（55年11月）・名古屋地区（57年1月）と順次サービスを開始しました。昭和59年3月には、全国主要都市へサ



ービスを拡大するとともに、60年9月には、車から持ち運べる「シヨルダーホンタイプ」、62年4月、コンパクトサイズの「携帯電話」の登場により、「持ち歩く電話」として人気を博し、ビジネス・レジャーへと利用方法のすそ野もさらに広がってきました。

そして、54年12月は、約一、六〇〇台でスタートした利用台数も順調に伸び、59年3月の全国サービス拡大時には約4万台、以後平成2年12月の50万台突破までの6年間を見ても十二・五倍の急激な増加となっています。

一方、四国における自動車電話・携帯電話サービスは、昭和59年3月に松山地区（松山

市など三市三町）・高松地区（高松市など四市九町）で開始後、59年8月には徳島・高知地区と順次サービスエリアを拡大し、現在では、四国の三十市一四五町四一村のうち二七市八九町五村のエリアをカバーしています。

なお、12月中旬には、高知の安芸・室戸市の二市二町一村と愛媛の内子・五十崎・中山の三町のエリア拡大をし、更に二市五町一村が新たなサービスエリアとなりました。

また、NTT四国の自動車電話・携帯電話の利用台数は、59年のサービス開始時約四四〇台でスタートし、平成2年11月末では七、八〇〇台となっています。

自動車電話・携帯電話の通話の傍受を困難にする

「秘話サービス」を四国地域で

サービス開始!!

12月13日（木）から

NTT四国では、自動車電話・携帯電話の通話の傍受を困難にする「秘話サービス」を、四国地域のサービスエリアにおいて、12月13日（木）からサービス開始しました。

「秘話サービス」は、自動車電話無線基地局と自動車電話・携帯電話（移動機）に、それぞれ秘話機能を付加（工事要）することにより、サービスを提供するもので、これにより無線基地局から自動車電話・携帯電話までの電波の部分が秘話となります。

サービスの提供地域は、昭和63年5月、東京23区でのサービス開始以後、主要都市地域（一都一府三都府三都府）で、すでにサービスを開始しています。

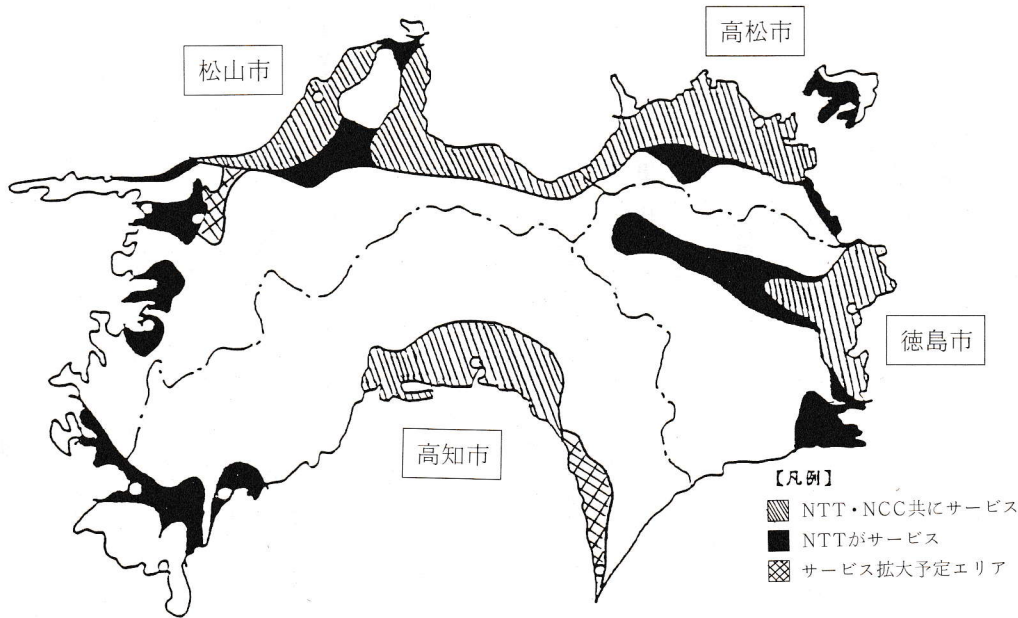
「秘話サービス」は、NTTが現在提供している全機種が対象となっており、利用方法

自動車電話・携帯電話契約数の推移

	54	55	57	59	60	61	62	63	元 年	2 年
全 国	1,600	6,400	20,000	40,300	62,000	95,000	151,000	240,000	379,000	469,000
四 国				440	780	1,270	2,240	3,780	6,150	7,800

(平成2年は、11月末)

自動車電話サービスエリア図



は自動車電話・携帯電話で通話中にお客さまが、ダイヤルボタン操作（開始F+\* 解除F+\*）により行います。  
 なお、自動車電話・携帯電話相互で通話する場合は、相手側にも秘話サービス契約を結んでいただく必要があります。  
 「秘話サービス契約」の料金は、工事料二千元と月々の付加機能使用料二千元となっております。

テルウェルだより

今年も「家庭介護者教室」  
 を開催（松山地区）

— 実技ははずかしうれしの大好評 —

長寿社会の到来と共に、N T T社員や退職者のご家庭にとっても、ねたきり老人の家庭介護は極めて重要な問題になってきています。そのため、テルウェルでは、昨年引きつづき、今年も公的福祉の補完として、ご家庭における介護の一助とするため、さる一月一日、N T Tプラザ松山において「家庭介護者教室」を開催しました。

今回は、松山市在住の方が中心で三十五名の参加があり、そのうちご夫婦が四組、男性の参加も二〇名と多く、やはり家庭介護は家族みんなが協力して取り組んでいかなければ

余 栄 (死亡順)



- 正七位勲五等瑞宝章 故 森 秀三郎様 (松山)
- 従六位勲六等瑞宝章 故 公文 進様 (南国)
- 正七位勲六等瑞宝章 故 山中 忠広様 (高知)
- 従六位勲五等瑞宝章 故 大名門通春様 (松山)
- 勲六等瑞宝章 故 小野利喜信様 (高瀬)
- 正七位勲六等瑞宝章 故 上野 義夫様 (松山)
- 正七位勲五等瑞宝章 故 鶴本 豊勝様 (松山)
- 正七位勲五等瑞宝章 故 檜垣 英一様 (松山)
- 従五位 故 池田 清澄様 (高松)

との気持で会場は満ちあふれていました。

講師に日赤愛媛県支部・家庭看護教師の門屋征洋先生をお迎えし、家庭でできるねたきり老人介護のポイント、ベッドの上での実技を中心に受講し、老人や病気の特徴、看護の心使い、老人のねかせ方、起し方、排せつの世話、体の拭き方、ねまきのかえ方などの実技にはみんなが代わるがわる参加し、慣れない手つきでマスターに努めていました。

皆さんから寄せられたアンケートには、「大変参考になった」、「年寄がいるのですぐに役立たい」、「とても良かった」、「また開催してほしい」など数多くの感想をいただき、また「畳の上での介護の仕方も教えてほしい」、「病人の食事についてもふれてほしい」、「救急時の扱いを教えてください」と言った要望もいただきましたので、今後の企画に生かしていきたいと思っています。

N T TグループOBによる  
生きがい余技作品展を開催

福祉センターでは、本年度退職者文化活動行事の特別企画として、N T TグループOBによる「生きがい余技作品展」を、さる十月二三日(火)〜二五日(木)の三日間、N T Tプラザ松山で開催しました。

作品は、絵画・書・写真・手芸・陶芸と広い分野で募集したところ、多くの方々から協賛を得て、八〇数点に及ぶ力作が集まり、N T Tプラザ松山の展示場も、県的美術館に負けない華やかな中にもシックな展示ムードに包まれ、開催当日には、開館時刻の一〇時前から一〇数人のOBが来場されました。

開館の一〇時、藤谷四国支部長のあいさつに続いて、同支部長、佐伯福祉センター所長、

N T TグループOBとして、県展審査員でもある長谷川茂さん、登尾松子さんの四人でテーパーカットを行い開館に華を添えました。

開催初日、NHKの取材があり、即日ローカルニュースで放映されたことと、好天に恵まれたことも幸いして、展示期間中の来館者は一五〇人へのぼり、展示場で、久しぶりに出会った旧友、先輩・後輩が和やかに談笑する姿もみられ、盛況のうちに幕を閉じました。

平成二年度OB大学 (松山地区)  
最終の教養講座を開催

OB五十七名に修了証書を授与

福祉センターでは、標記の教養講座を、さる一月九日、松山市二番町の番町公民館において、写経やテレホン講話で有名な空無我堂の堂主、村上空山先生を迎え開催しました。

最終コースということもあって、小雨の中六七名のOBが集まり、佐伯福祉センター所長から、あいさつを兼ねてテルウェルにおける社会福祉事業の動向と今後の取組みについて説明がなされた後、先生から「生きる」を演題に①天界から眺めた場合の人間の小ささ、②それぞれのうつつわの中での人生と出会い、③出合いの様々な条件と大切さ、更に命の尊さ、大切さ、生きることの意義など、佛教の教えをはさみ、順々と分かり易く説かれ、これからの人生の生きざまを示唆した内容で、聴講者に深い感銘を与え、大変好評でした。

終了後、教養講座(全五コース)四コース以上の受講者に対し、テルウェル四国支部長名の修了証書と記念品が贈られることとなり、代表者・磯岡芳明さんに修了証書と記念品が手渡され、盛會裡に閉校式を終えました。



表紙の言葉

鶯

莊野 丹秀 (内海)

皆さんが 私の表紙絵を見るのを  
楽しみにしていると

よく聞かされます

嬉しく思っています

健康であるかぎり 描きつづけたいと  
努力しています

敬 弔



次の方々が逝去されました。謹んで哀  
悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

氏名	死亡年月日	享年	所属
仲岡 重夫	2・6・29	七四	松山
白銀 勇	2・8・31	七五	宇和
大崎 嘉幸	2・9・26	六七	嶺北
久保 ヨネ	2・9・28	七四	高松
高畑 義徳	2・10・10	六三	普通寺
保木 行重	2・10・14	八三	高知
池田 清澄	2・10・21	八一	高松
青木 敏春	2・11・2	六三	高松
田所 恒吉	2・11・7	五七	松山
久門 賢一	2・11・7	六八	西条
三浦 忠義	2・11・15	八四	高松
中原長太郎	2・11・26	九〇	日和佐
大屋敷義夫	2・12・1	八八	高松
安藤友三郎	2・12・7	七六	高瀬
松岡 重蔵	2・12・8	七八	八幡浜
山本 秀吉	2・12・22	八八	高知
真鍋 繁雄	2・12・23	七八	高瀬

隨 筆

余技作品展の聞見記

穴吹 義教 (松山)

昨秋の余技作品展(於NTTプラザ松山)を、身近に鑑賞させていただき、さまざまな感銘を受けた。余技よりも芸術品と銘打つべき秀逸ぞろいの出品が並べられていた。

かつて草柳大蔵氏が、電電公社にはレベルの高い文化人が埋もれている、と激賞されておられたのを、ふと思い出した。

書のコーナでは、O氏とH氏の二先輩が抜群。お二人とも高年齢だが、O先輩は、五十七年間愛用された硯に穴があいた、と微笑み語られた。驚くべき人間の努力の偉大さに感服。Hさんも書の大家だが、余技に写真を始めたのが書よりも古く、さらにこの数年間に墨絵、陶器と巾を広げておられるそうである。「書と画は形を異にし、品を同じくする」という名言を噛みしめた。

書幅のなかで、私の感銘を受けたのは、K先輝の書だった。孤猿更叫秋風裏不

愁人亦断腸

これは、唐の道士戴叔倫が、猿に託して孤独の淋しさを詩化したもの、流麗な書風とともに観賞客の胸を打ったようだ。

油絵のコーナでは、S先輩がご健在振りを託されていた。

「あの方は、確か陶器作りも手がけられていたはずだが、」こんな囁きを耳にした。

写真コーナでは、いろいろ多彩な作品が展示されていた。題名と見比べて、作者の意図をくみ取るのに、しばしただたずむことがある。

「あの方が、こんな特技を修得されておら

れたとは、」と懐しさと驚き混りのざわめきが、時折り起っていた。

来年もさらに芸術性豊かな作品が、数多く出揃うきっかけになるイベントであった。

元・国際電気通信KK社員の集いに出席して

馬木 重美 (松山)

平成二年九月二十九日、番町会館に於て、戦前・戦後にかけて国際電気通信KKに籍をおいた二十七名が集まり、幹事の生駒氏や有田さんのお世話で盛大な懇親会が開かれた。

赤羽会長の挨拶の後、米寿の吉田さん、傘寿の後藤さんにお祝の記念品が贈られたが、お二人とも元氣そのものである。

思えば、同じ釜の飯を喰った人々が、四十年経った今一堂に集まり、懇親会が開催できることを、まことに意義深く感じた。

この会社の仕事の性質上、公社時代は搬送部に勤務した方が多く、日頃はご無沙汰しているが、みな上司や先輩の方々に、お顔を拝見するだけでも懐かしかった。

石丸さんは私と同じ京城支社勤務で、竜山二十三部隊に入隊された由、私も、ふと戦中の歌を思い出した。「竜山二十三部隊 ハンカチくわえ目に涙 どうか歩哨さん会わせてねえ わたしのスーチャン一中隊」……。

話はつきることが無く盛り上がるが、とても全員の方に挨拶する時間が無い。西条中継所時代の先輩、池田さんと顔が合うやいなや「こゝに坐れ」と言う。共済会の仕事から話はずみ、旧満洲奉天時代に迄さかのぼる、熱が入って面白く盃を交わしています。上り下りだった明地さんが加わります。メートルが上って話も頂点に達した頃、幹事から時間の

終了を告げられた。

帰途、生駒氏が「コーヒーでも」と言うので、先輩の加藤さん、有田さんと四人で車に乗る。着いた所は予想通りカラオケスタジオ、生駒氏が最も得意とする新曲「ソウル物語」を歌う。いつの間にか上手になつたのだからか。モニターテレビには、やたらと大韓機の離着陸とチマチヨゴリ姿の絵が目につく。有田さんの「暗夜航路」は、キムヨンジャより情が込められていた。加藤先輩は直前にビールが一本入り、これもまた数曲を上手にこなした。私も少しは練習することにした。今日は、幹事の盡力により終日愉快に過ごせ、感謝のほかはない、来年は高松市と決まったが、香川や徳島の皆さんも久しぶりにお会いできるだろう、戦後結束しているこの会が、みんな健康で長続きしますように。

### 硯の底に穴が

織田 鶴一（今治）

私は二十年前に公社を退いて今治に帰り、四国通建に籍を置きながら、市の軟式庭球連盟会長・体育協会の副会長・愛媛スポーツ祭今治選手団長、町づくり委・スポーツ振興審議会委員等々、思いがけないスポーツ関係の仕事を引き受けていたが、傘寿を迎えたこの春、これらを退かせてもらい、余り責任のない顧問という閑職を与えられたので、私の本態である書道に専念。じまこの道六十年、いまだ現役で、過日は五十七年も愛用した羅紋石の大硯の底に穴が空きました。

振り返れば、公社の余技展はもとより、日展、更に書道同文会、一元会の役員もとうの昔に終えましたので、現在は発足時（昭和三年）から関わっている書神会の顧問として、

若い会長の後盾となり、年中いろいろな書展の賛助作品や、依頼された拙作等に追われながら、毎日数時間本腰を入れて、残り少ない人生に取り組んでいます。

しかし、ヘルペスの後遺症の痛さはまた格別ですが、これはあの世まで背負って行く覚悟です。

さて、私の広い書齋は土曜日の午後など満員で、大勢の子供や大人の筆執る人々で賑わっており、これが私の楽しみの一つです。

また水曜日は九十四才になる戦官の老師を訪れ、この道を教えていますが、その現状をテレビ愛媛が九月三十日と十月七日の日曜日朝八時半から三十分間、二回にわたり連続放映したこともあり、多少の苦勞もあるけれど、元気で、生きがいを感ずっています。

（注：織田さんは、さる十月十二日、今治市制施行七十周年記念に当たり、体育功労者として、同市長から表彰されました。おめでとうございました。）

### 主語と述語

岡田 恂三（松山）

もう二年ほど前になろうか、作家の五木寛之氏の講演を聴き、強く印象に残ったトスカという言葉が折にふれて思い出される。

それは「人間は泣きながらこの世に生まれてくる。そしてトスカというふさぎの虫の絡印を背中に押され、大きなプレッシャーをかかえ、それをねのけ、はねのけて生きねばならない。これは大変なことなのだ。社会はとかく立派な人に価値を与え、つまらない人は軽く見がちであるが、これは間違っている。たとえつまらない人であっても、その存在そ

のものに価値があり、尊重すべきものである。そしてこのことが人生の肯定につながる考え方はなかるうか」という提言であった。

一時期、公園や地下鉄などに寝起きしている浮浪者を少年達が襲い、迫害を加えて死亡させたことが、新聞やテレビで報せられたが、その際、少年達は異音に「彼等は人生の落伍者で、害こそあれ、益するものはない。自分達は市の清掃局の手伝いをしたにすぎないのだ」と言い放っていた。

私達社会には主語と述語がある。文法的には主語は主題を表わし、述語は解説または事柄の報告を述べ、哲学的には主語は一般的であり、述語は特殊である。AさんやBさん、机や鉛筆とともに主語であり、Aさんはこんな立派な仕事をしている。Bさんは大変元気で積極的に社会福祉に貢献している。この机はシツクで美しい。この鉛筆は大変書きやすいなどなど、各後半の部分が述語である。また、人間にとって最も厳粛な生死の表現も、人を愛するということ美しい表現も、述語部分をもってはじめて可能である。

私達が小学校の頃、「将来の抱負」について一人づつ発表し、文集などに残す習わしがあったが、その抱負の前提には必ずと言ってよいほど、日本一とか四国一とか、今思えば随分と勇ましい肩書を付して発表したものであった。軍国主義の当時としては勇ましいけれど、勇ましいほど世間の受けもよく、そんな教育が行われていた。ともあれ、一人ひとりの発表は勇ましい修飾語と述語で構成されていた。これまで、私達は自分にも、子供達にも、そして孫達にも、全く疑うことなく「しっかり勉強して立派な人に、社会に得立つような人になるように」と言い聞かせてきた。すな

わち、述語部分を強調してきた。これが私達の人生観そのものであった。

しかし、氏の講演を聴いて、もう一つの人生観を知ることができた。浮浪者として、かつては出稼者として立派に働いて、一家の大黒柱として仕送りをしていたらう。あるいは昨日までは立派なサラリーマンで家族を養っていたかも知れない。それがなんらかの事情で家族と断絶し、転落したのではあるまいか。少年達の行為には全くと言ってよいほどこれらへの思いはない。それもこれも述語的教育の重視し過ぎの結果ではなかるうか。特にこれからの高令化社会を考えた場合、人間の存在そのものに価値をもたせた人生観の教育こそが問われるべきではなかるうかと思う。

### 船場物語(3)

梶浦 照秀(徳島)

人には必ず自分の人生にとって、忘れられない巡りあいがあり、人は死ぬまでおびただしい出会をくり返して生きてゆくのであろう。私は初めてお逢いする佐々木さんと、市内の興源寺でお逢いすることにした。

興源寺は佐々木さんの母の実家の墓所である。美馬家の本家の墓と佐々木さんは佐古の福蔵寺と三ヶ所をお参りするのに半日もかかり、遅い昼食を私の家ですませて、今夜は伊勢谷さんのお宅で泊り、明朝帰阪の予定であると帰られた、数日過ぎて便りがあった。

先日は貴方様のご尽力により、久し振りにご先祖様のお墓参りすることができ、積年の想いを一時に果たし、お互いのご先祖様の連なりを深く記することが出来ましたことを、先ずお礼申し上げます。今や私が最高齢者となりました。世の中に出会いの喜びとよく言

われますが、私の身の上にも生じたこの喜びを、我が胸の中に幾度も通して見て、生きていけばその感で一杯です。私が生きていると言うことは、父母、祖父母の生命を受けている証だと思ひ、貴方様よりのお便りがあればこそと、今更ながら出会いの不思議さ、現在の姿を知りました。今年は誠に意義深い人生の一駒であり、私の歴史の一頁です。

私一人密かに秘めていて誰にも語ったことのない美馬家崩壊の一端を申し上げます。

父の弟は旧徳島中卒業、旧松本高等学校から東大独法科を卒業しましたが、同級生が知事になってゐるのに、勤めることを考えず、図書館で高価な本を数冊も借りて来て、毎日読み更ける世捨人のような一面もあり、またカメラを持ってあちこちと写し回る生活でした。父は日本海から東北へかけて藍を運び、北海道からニンシ肥料を、山形、秋田、新潟から米を大阪、徳島に運んでいました。

弟の嫁を新潟から迎え、東京、徳島と二度の結婚式を行い、其の写真は誠に美しい花嫁さんでした。結婚後東京の新家で外国映画の翻訳をする仕事を始め、二年余り続きました。ある日突然この叔父と妻と長女が女中付きて徳島に帰って来て、離れの平家を二階建に改造するやら大変でした。

私の家に北前船が二隻ありましたが、朝鮮仁川の店で米の運送専用に使っていた一隻が難破して大損害を受け、仁川の店を整理することになりました。そのうち叔父に長男が生まれましたが、普通の怠け者に戻り、叔母が突然家出し、八方手をつくし探しましたがとうとう分かりませんでした。

私も結婚して夫婦共働きでしたので、母子の育児をみてもらい、一緒に暮らしてい

したが二度も戦災にあつて裸になり、故郷の人達との連絡をとる時もありませんでした。母は昭和二十二年、六十四才で亡くなりました。食料不足の時代でなにもかも不自由でした。今のように物の豊かな時代であれば、もう少し生きられていたかも知れません。

母の納骨の折、お寺で次のようなことが分りました。叔父の長女は十七才で死去。長男は徳島商業卒業、大阪丸紅に入社、應召にて戦死(二十三才)。このとき叔父の消息は分かりませんでした。昭和四十二年、八十四才で一人淋しく亡くなったことがその後分かりました。祖父の百年永代供養と共にみんなの追善供養をすることが私のなすべき、最後の任務だと思ひます。いずれ日時が決まれば御通知申し上げます。

私は、この便りを読みながら、幼いときに歩いた船場の町の記憶を思い出して来た。

### 投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
  - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
  - 三 随筆 六〇〇字以内
- 原稿締切 二月二〇日
- ・ 字数はなるべくお守りください。
- ・ 原稿の取扱いについてはお任せ願います。

電友会四国連合会会報 第七三号

平成三年一月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四一三(二七九〇)

NTT四国支社内

電話(〇八九九)三六二一〇三三

印刷 四国電話印刷株式会社

100  
電話100年  
人と情報の未来へ

平成3年1月1日午前2時。  
東京03地域の市内局番が、すべて4ケタになりました。

NTT

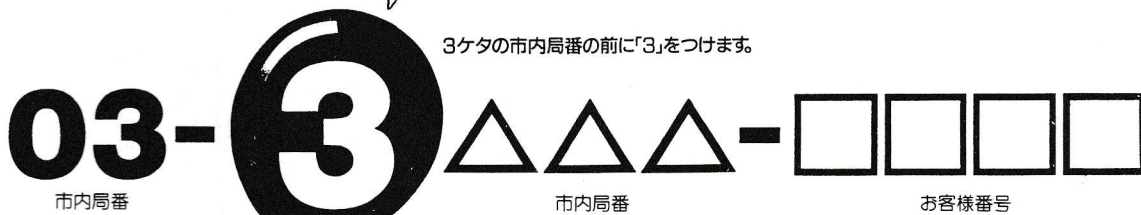
# アタマに3がつきました!

〈平成3年だから、アタマに3〉

(例)

03- 740-□□□□のお客様の場合は  
03-3740-□□□□となりました。

※現在 5△△△の4ケタの市内局番をご利用のお客様には、そのままお使いいただけます。



「東京新番号」よろしくお願ひいたします。

- 電話機、ファクシミリ、パソコン、キャプテン等に東京03地域の相手先電話番号を登録している場合は、4ケタの市内局番への変更をお願いいたします。
- お問い合わせは、フリーダイヤル ☎ 0120-019017